第35期新潟市社会教育委員会議　会議概要

第2回社会教育委員会議	
開催日時	令和4年7月21日（木）　午後3時～午後5時
会　　場	クロスパルにいがた4階　403、404講座室
出席者	【社会教育委員】 小倉　壮平、角野　仁美、佐藤　裕紀、清水　隆太郎、司山　園美、白神　道子、竹田　暢美、平山　智康、山岸　則子　計9名　※敬称略 【事務局】 教育次長、地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、生涯学習センター所長、所長補佐、生涯学習センター職員3名　計9名
内　　容	1　開会 2　報告事項 (1)令和4年度指定都市社会教育連絡協議会福岡大会参加報告について 〇報告資料1に基づき、書面による報告を行いました。 (2)令和4年度新潟県社会教育委員等研修会参加報告について 〇報告資料2に基づき、白神委員が令和4年度新潟県社会教育委員等研修会について報告しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 (3)令和3年度社会教育関連事業実績報告について 〇報告資料3に基づき、各所属長が所管している事業について書面による報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 (4)社会教育委員会議開催日程及び各種大会日程について 〇報告資料4に基づき、事務局が令和4年度の社会教育委員会議日程及び、各種研究大会の日程等について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 3　協議事項 第35期社会教育委員会議の建議（活動）テーマについて (1)人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について 〇協議資料1、2に基づき、佐藤副議長が今後の地域における社会教育の在り方について、中央公民館長が今後の社会教育施設の在り方について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 (2) 意見交換 〇(1)の説明を踏まえ、建議（活動）のテーマについて意見交換を行いました。 【主な質問・意見等】 ・最近、いろいろな場で聞くのが小学生の学童の問題である。学校によっては児童

内　　容	が溢れてしまっていて、適正ではない状態の学童クラブもあると聞いている。学童クラブで子どもたちが過ごす時間は、積み重なると大きな大切な時間だと思う。その適正ではない状態を早くクリアにしてあげることについて取り組んでみたい。 ・行政の中でも担当の課が分かれているので、様々なセクターから見て改めて考えてみるような機会がもてるとよいと思っている。 ・高校の授業支援を通して思うのが、社会に開かれた学びをつくるにあたり、小中学校はコーディネーターがいて学校と地域がつながりやすくなっているが、高校が取り残されている感覚がある。コーディネーターがいない高校は、どのように社会の人とつながっていけばいいのか先生方だけで模索されている状況である。高校生の探求学習は自分のテーマをもって社会にかかわっていく営みだが、そこのかかわり方が分からないと、せっかく興味をもってもその学習がうまくいかないということが往々にしてある。 ・10 代世代が地域社会や新潟との接点をもちたいと思ったときに、どこにどうアクセスしていくとそれがうまくいくのか、そういう仕組みを社会教育の中でつくっていけたらよいと思っている。 ・市内公民館の取組の一つに、青少年向けの事業をしているという話があった。青少年、10 代に対しては、いろいろな人とつながっていける環境が必要だと思う。いかにしてまちや人とつながっていける環境を 10 代に届けられるか、その仕掛けや居場所づくりのようなことに取り組んでいきたい。 ・コロナ禍になり、これは本当に必要だったのかなと思うことがたくさんある。今ある活動のどれが必要でどれが必要ではないのかを考え、必要なことに力を注いでいくようにしたい。 ・ネットワークとよく言うが、「ネットはつくるがワークしない」というネットが山のようにある。やはり動くものをつくったほうがよい。そのためには、一つ一つがしっかりと磨かれて、きちんと動く状態になっていないといけないと思う。 ・「何かやりたいけれどもどうしたらいいか分からない」というフィールドをいくつか決めて、社会教育委員の皆さんの総力を結集してそこを伸ばすということをこの 2 年間でやったらどうかと思っている。そうするといろいろな課題が見えてきて、そこから初めて次に「制度として」、「仕組みとして」、本当に何が必要かということが見えてくるような気がする。実践者の集まりでありたいと思っているので、そういう動き方ができると面白いと思っている。 ・キーワードは「ネットワーク」と「Society5.0」、「ＳＤＧｓ」。特に前回、「マイノリティ」とか「生き抜く」という部分で、そこに辿り着けなかった人たちはどうしたらいいのかという話が出ていた。ＳＤＧｓも一人も取り残さないと言っているが、その目標に向かっていく途中で取り残されていく、その目標に辿り着かないマイノリティの方たちをどうしたらいいのかというのは、考えなければいけない課題だと感じた。 ・ネットワークという部分では、今たくさん横のつながりをつくっているが、実際には稼働しておらず名ばかりというパターンが多く、結局仕事量は変わらなかったりやっていることが膨らまなかったりということがある。うまく稼働する仕組みづくり、その中核になって動く人をしっかりと育てるところにもう少し力を注げるような、勉強会や実践、実例について皆で考えてみたい。 ・Society5.0 も、機械化が進めば進むほど必ず取り残される人が出てくるので、便

内　　容	利な社会についていけない人たちも、それもある意味取り残されていると思う。 ・一つ目のキーワードは「連携」。「学・社・民の融合」に向けて今いろいろなところが連携し、新潟市はとても成果が出ている状況だと思う。けれども、例えば高校や大学で連携が切れてしまうなど、そういうところで行き詰まり感を感じている。 ・上の世代の地域の人たちはつながっていても若い世代はなかなかつながれない、ばらけている感じがする。限られた資源と人間と予算の中で社会教育や生活を豊かにしていくには、もう連携しかないのではないかなと思っている。 ・二つ目のキーワードは「社会教育資源の有効活用」で、これも非常に大事である。例えば、地域にコミュニティセンターやコミュニティハウスがあっても、公民館がないというところもある。そこでも社会教育が進められるように、公民館を見本にしながらやっていけるといいのではないかと思う。地域ごとにいろいろな資源があって、それを有効活用することで社会教育がもっと充実していくのではないかと思っている。 ・学校現場からのキーワードとして、主に「地域人材」と「放課後や週末の居場所」がある。「地域人材」については、「地域と学校パートナーシップ事業」が続いており、今年度から「コミュニティスクール」も全校で実施となった。学校では「各学校区の伝統的なものや歴史、地域の現状などを地域の皆様から教えていただきながら地域の課題を考え、意見や提言をお伝えする」という学びのパターンが多いと思うが、結局毎年同じことをしているような状況があり、それだけでいいのかなという思いがある。 ・今回コミュニティスクールが立ち上がったことによって、学校の教職員の立場として欲しいのは地域の人材である。地域の人が学校の教職員と同じように子どもたちに接したり、ＩＣＴの技術など、それぞれの強みを子どもたちに提供したりしていただけるような。学校の教職員よりも広い視野をおもちで、子どもたちにそのような世界を見せていただけるような地域人材を学校の中に導入したいと考えている。ただ、校区の中にそういう人がちょうどよくいるかと言えば、難しい場合もあると思う。 ・前任校では、地域の焼き物を子どもたちに教えてくださる講師を増やすために、公民館の方を学校にお招きしてその技術を公民館の講座として学んでいただき、そこで練習を重ねて子どもたちの前に立っていただくという取組をしていた。そういう各校が求める地域人材を、公民館等でレッスンを積んだ形で自信をもって学校現場に来てくださるような仕組みができないものかと考えている。それは、学校区だけではなかなか難しいので新潟市の人材バンクのように全市一斉で取り組んでほしいと考えている。 ・今話題になっている部活動の地域移行については、今後どうなっていくのかまだはっきりとした結論は出ていない。部活動が学校現場から離れて地域に向かっているというのは間違いなく、例えば中学生の力を外に発揮できたり、中学生が小学生の面倒を見たり、高校生が中学生の面倒を見たりできないかと考えている。それはスポーツであってもスポーツでなくてもよい。ただ小学生と遊んであげる中高生がいてもいいと思うし、パソコンが得意な中学生が地域のお年寄りの方に教えてもいいと思う。そうなると安全面とか、何かあったときの補償などが当然かかわってくるので、そういうところを網羅できる仕組みがこれから整備されるべきところなのかなと考えている。それらの活動が社会教育という窓に当てはめていけたら、非常に有効な施策になるのではないかと考えている。

内　　容	・私は県のキャンプ協会に所属しているが、そこで一生懸命やっているメンバーは、ほぼ私と同世代か私よりも上で、残念ながら若者がいないという現状がある。現在は、自分のためには行動するが、他の人のために行動しようという人が少ないような気がする。若者の参画という意味も含め、自分の興味関心があることをうまく活用して、世のため人のためになることをしたいと思える若者を育てていく必要があるのかなと思っている。 ・例として、沼垂テラスは若者が参画したのだろうと思うが、そういう「若者が参画できるシステム」をどうするか、参画したくなると思ってくれる若者をどう育てるかを考えたい。 ・デンマークは、若者が積極的に政治に参画し、投票率もとても高い。新潟でも県知事選挙や参議院の選挙があったが、残念ながら投票率はそれほど高くなかった。そのあたりが若者の参画にもつながってくるのかなと思う。何とか私たちの力で、若い人たちが「頑張らなければいけない」と思えるような、そんな若者をいかに育てていったらいいのかというところを考えていく必要があると思う。 ・私は、本、特に絵本が大好きで、子どもたちに絵本の楽しさを味わってもらいたいと思っている。毎年、広島と長崎の原爆に遭った方たちの手記や詩を朗読しているが、それは、「平和な世の中で生きている自分の命がすごくありがたい、大事にしなければいけない」と、子どもたちに感じてもらいたくてやっている。「あなたたちは、今この世界に生きて楽しさを十分味わっていられるよねと、そういうことはすごく嬉しいことだよね」と今生きていることを大切に感じてもらいたい。 ・新発田市には、そうやって朗読を通して中学生に伝える機会があるが、新潟にはそういうものがない。本当は中学生、高校生に聞いてもらいたいと思っている。 ・今は、遊ぶにしても他の子どもとは遊ばないとか、個で生きていくということを身に付けた子どもたちが多いと思う。でも、皆で楽しさを共有して生きていくことの大切さを子どもたちに感じてもらいたい。その一つの媒体が絵本であり朗読である。 4　その他 〇第 3 回の会議について、10 月 13 日（木）午後 3 時からクロスパルにいがたで開催することを確認しました。 5　閉会
傍聴者	0 名
会議資料等	・第 35 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回）次第 ・報告資料 1　令和 4 年度指定都市社会教育委員連絡協議会福岡大会報告 ・報告資料 2　令和 4 年度新潟県社会教育委員等研修会報告 ・報告資料 3　新潟市教育ビジョン令和 3 年度進捗状況最終評価【非公開】 ・報告資料 4　第 35 期会議日程・各種日程 ・協議資料 1　文部科学省「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)概要」 ・協議資料 2　文部科学省「学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議（論点の整理）の概要」 ・協議資料 3　第 35 期新潟市社会教育委員会議(第 1 回)意見交換の概要